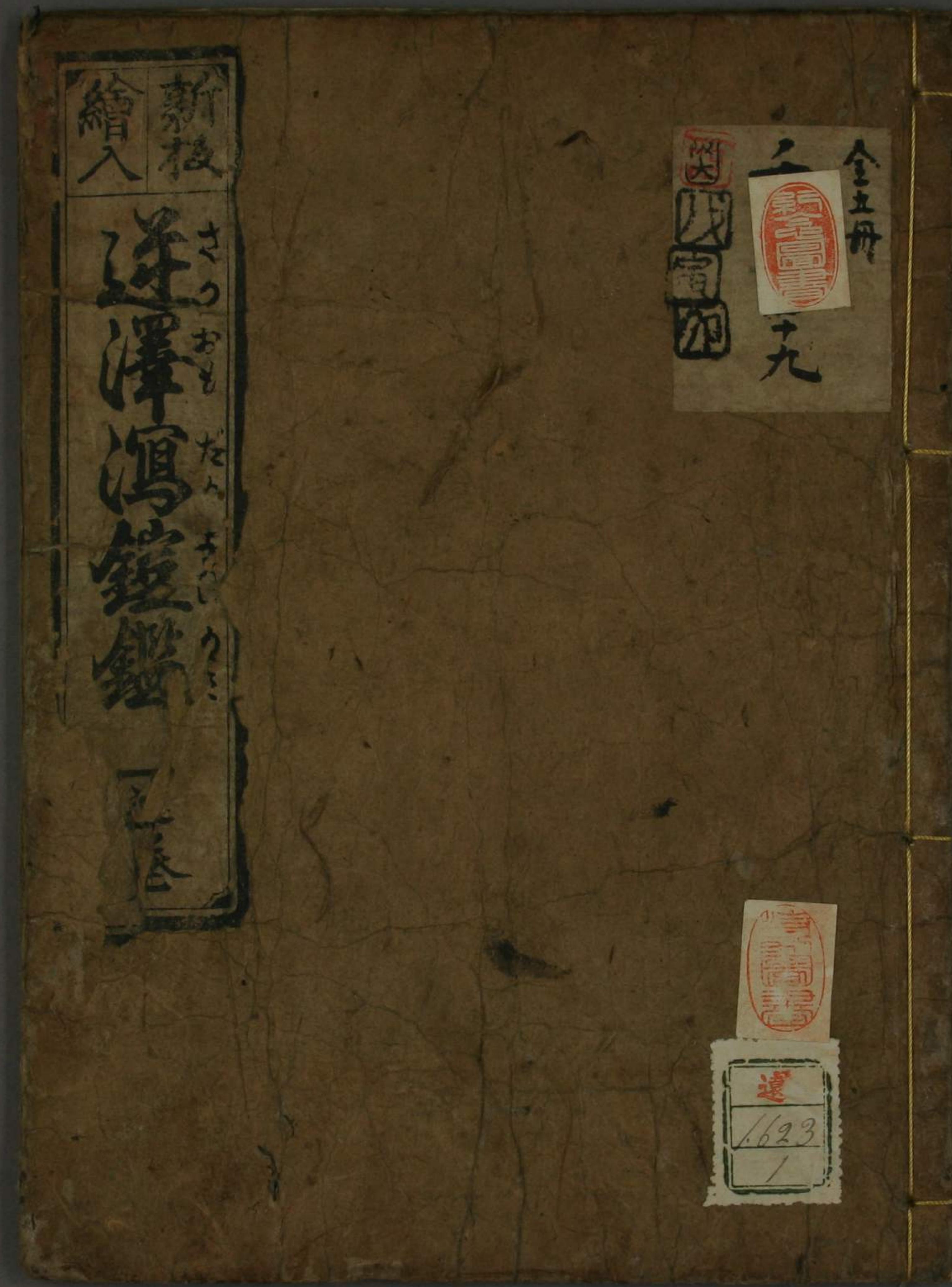


		LICENSED PRODUCT	
		3/Color	
Blue	Cyan	Green	Yellow
Red	Magenta	White	Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19			



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 JAPAN
Teijima

1623



序

富士山に之れを以て人見る。豈
兄子の様。乙亥祐經乃もづくわら。

わざりに哉也。紙淨ろもゆくもに
きぬひつと。今和紙ふ號をすて。せり是
於じの極まんとせられた。先年山へてそ
えゆるが爲。其事はゆくとてむと向

陵
書
虞
若
林
部

卷之二
そりそあそびうへやほのま。ひう
峰嶺かねありとうひれ。あざくとあるづ。
よみ本おもとより数かずのほそみえ
えよと年

正月吉日

自矢

作者八文字
其矢



遂澤さつざわは鎧よろい縫ぬい

一之巻

目録

第一

梅橋ひば候まことて香か女め中のなか仕わ

家くくり燈ともとも団だん

うしとうらわゆわととをを

表あれれふふががりりとと

第二 白檀の居間とまつてくら倭人

虎へふ黒紙はてふアとマコ

竹乃ちすりあらわれうちの

おもてそえでひき紙足すう鶴内

第二 鎧乃し合羽のあくねナアゲ詰

ツヒヨケハ附く圍みアゲ詰

あもどもも一そんにふとふ

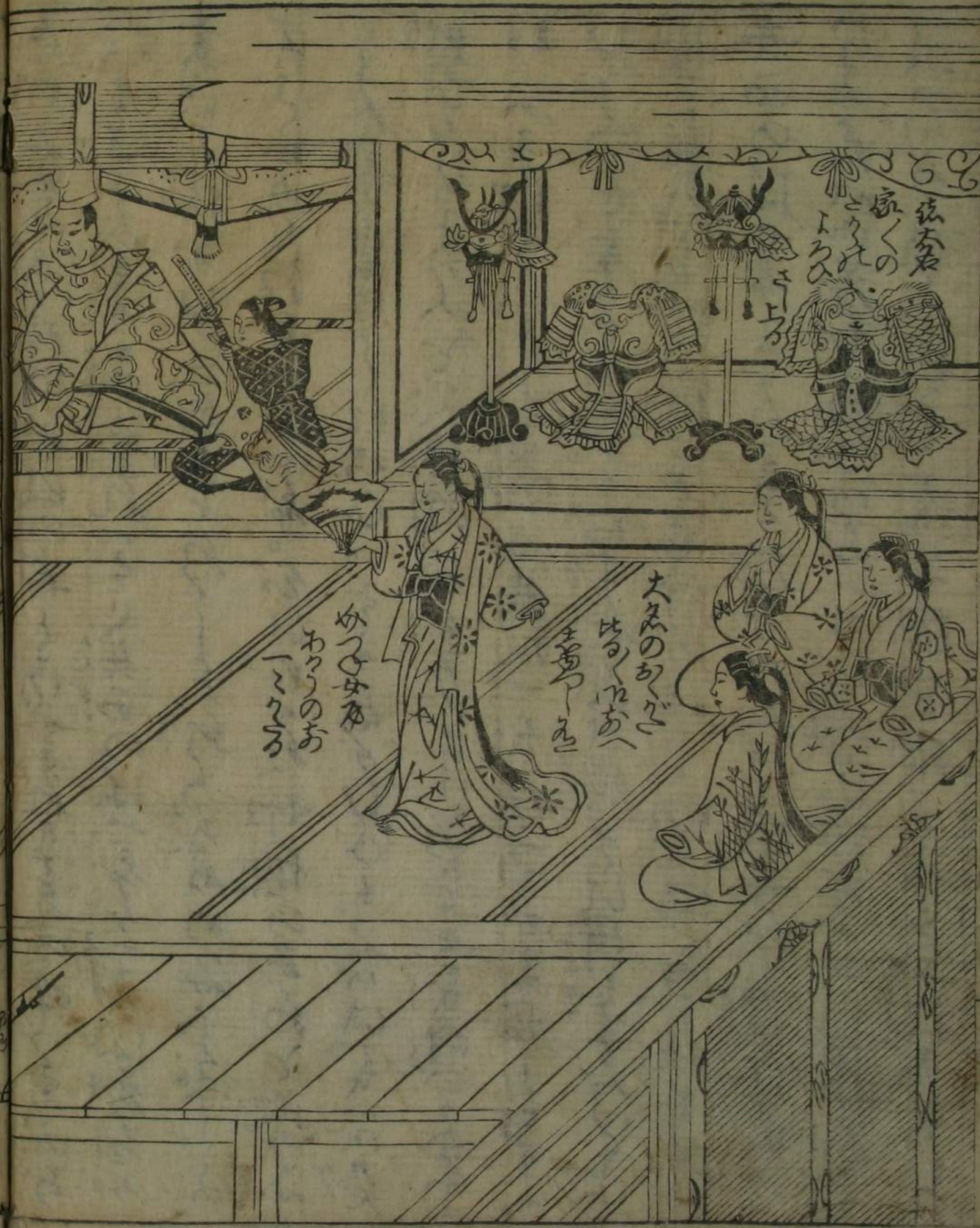
一 楊柳喫ヨモク香ニ女中れ生仕

立

一

大なるうめ乾え資て不ぞじ。も民の人世界の又毋。
その武士め八十氏の源にあぐらをす。文もあらぐて
字へとゆふ左を脇の大將親ねば。やう平家と西海よ
亡し。帝かと安ド奥乃と平げ。文と磨き武徳研
研ぐ。豫金勵の威徳れ行。ともかく思をあく。嘆へ
遠久四年正月二日。例年のこと。がきとく。年賀の
あれま。おりり。百寿の間にいとうせせ。兼て拂泣され
有とりづく。侍所の近ユ。第一萬石。左衛門。右衛門の祐経。
安西。は。七。帝。長。武。あ。人の。下。か。とりづく。左豫金乃
徳大名の奥。方。の。こ。じ。拂泣よ。は。紫。紫。紫。紫。

絶ごく。晝ひもう袁林の葉麻。まだ雪のこう初美に。
ぬあらひ。梅樹。柳がひどいたとすふ。木月の僕。あざ
やうたうへ。まとあつた。たゞく。今津。よ歌。うる。秋。絶
續。宿。候。にこやく。細。えう。ゆく。を。よ。游。え。れ。秋。絶
れ。奥。阿。幸。の。ま。げ。う。よ。じ。ひ。達。で。ま。う。あ。ま。め。武。威。マ。ゆ
小。輝。さ。ざ。て。た。そ。あ。代。の。大。名。小。名。の。ち。あ。非。が。妻。ハ。行
づ。始。そ。れ。が。奥。ハ。何。氏。れ。妹。く。つ。す。と。と。は。情。面。に。あ。う。と
き。そ。ち。あ。る。出。わ。れ。宿。大。名。れ。用。家。一。日。よ。情。目。ア。と。抱。あ
れ。れ。れ。ね。お。え。ま。せ。う。代。な。れ。ぐ。と。女。中。れ。ぐ
に。附。西。と。う。ま。よ。先。ひ。頼。朝。が。兼。中。政。ぶ。の。あ。へ。お。陳。の。時。政。の
娘。え。れ。な。る。間。の。小。室。部。茶。時。の。妹。う。の。妹。ち。人。へ。足。利。と。絶。分
離。兼。島。と。ま。る。梅。も。う。多。ま。る。本。野。脚。注。鷹。令。金。山。山。野
色。作。平。賀。或。ま。う。引。御。政。の。妻。と。ち。づ。ま。れ。だ。と。の。妹。つ。と。ぎ。あ
は。ま。と。ま。う。ま。う。ま。う。と。の。妹。つ。と。ぎ。あ
あ。に。ア。精。か。し。よ。急。く。と。り。ぞ。と。射。つ。な。め。わ。ソ。セ。う。と。よ
と。と。か。り。く。ば。う。の。小。室。部。か。に。ら。う。奸。倭。の。あ。め。と。婚。ふ
う。う。う。本。ま。う。と。の。ふ。ひ。い。ま。う。あ。く。も。の。も。う。バ。け。ま。う。か
か。の。う。う。と。と。と。思。わ。る。系。は。一。云。や。す。せ。よ。那。も。せ。よ
シ。う。う。と。と。と。執。と。う。忠。計。の。ね。義。明。く。と。ひ。う。け。ヤ。セ。じ
安。西。の。ほ。せ。や。と。れ。う。列。せ。り。く。と。い。安。西。う。解。ほ。益。ち
う。う。君。の。ひ。兼。中。政。子。の。あ。み。妹。婚。小。名。う。う。う。浦。絶
よ。ひ。か。う。う。それ。う。う。お。婚。有。那。と。か。う。一。れ。ア。ま。れ。



エホトキ。慢歎ひ。をもて。終太ふれ。奥方とぞれ。牛
のそもも。の。手の。妙。武田の。を。手の。巣。中。小差。不。ち。あ
長。四。の。株。た。り。よ。ぬ。て。ぐ。く。人。も。う。づ。く。敵。と。う。の。ま。は
多。内。家。ハ。石。川。の。村。左。代。兵。資。の。ゆ。曲。の。九。扇。ハ。金。う。晴。三
画。一。の。及。士。れ。お。寝。の。あ。司。ハ。桃。平。三。の。姫。婿。み。り。と。く。ろ
く。と。キ。の。ま。う。お。田。の。美。望。の。肉。化。し。と。も。に。す。一。本。常。金
の。不。り。い。ま。巴。の。一。も。ぐ。く。り。も。う。か。と。み。む。づ。じ
と。び。ゆ。て。今。ハ。ま。ぬ。と。成。田。の。十。房。妻。ハ。き。び。つ。く。ね。ん。わ
な。生。が。娘。う。う。と。陰。く。え。の。せ。大。小。名。や。と。八。百。六。十。ア。ハ。小。
の。ち。え。ハ。そ。し。下。小。名。び。と。つ。ま。じ。す。時。お。た。う。二。の。ま。の。を。名
が。あ。れ。世。ワ。ミ。ア。ダ。ミ。ナ。性。ハ。祐。院。の。ひ。ね。じ。ド。シ。ト。う。に。か。う。ざ。と。ハ
ハ。祐。院。の。ひ。と。マ。ア。ロ。ク。ノ。ウ。女。婚。ハ。祐。院。の。ド。う。よ
と。ハ。ひ。ゆ。ど。と。つ。と。ア。祐。院。外。河。ほ。の。高。が。娘。二。の。三。が。女。の
れ。世。が。ま。ア。コ。ト。グ。ヌ。と。ハ。テ。ア。あ。つ。く。後。ま。る。も。よ。バ。リ。セ。も
と。て。ど。祐。院。づ。だ。り。も。に。め。て。ハ。ふ。も。オ。グ。一。赤。コ。行。東。の。入。が
祐。院。と。よ。よ。の。り。ー。た。げ。考。之。た。つ。不。か。ハ。寺。ら。う。也。
律。刑。禁。よ。は。は。ま。く。と。き。の。件。に。済。と。つ。る。麻。り。の。どう。さ
なく。も。よ。う。君。父。親。は。お。う。歎。と。祐。院。事。中。僕。や。の。入。が
お。撰。の。ま。取。あ。つ。く。ほ。る。に。僕。せ。に。村。ち。病。され。う。も。僕。
天。と。祐。院。の。大。罪。と。か。り。べ。後。半。れ。縁。と。切。て。一。門。と。ぞ。う
な。う。う。へ。先。遣。て。お。と。も。ひ。を。う。り。い。ば。う。件。ぬ。人。あ。う。
せ。う。お。我。の。お。あ。う。人。母。ま。も。へ。と。つ。と。御。今。ハ。ま。う。お。と。ま。主
へ。河。は。と。つ。と。あ。氏。よ。縁。の。ま。れ。う。か。と。ざ。う。な。う。い。は。
李。よ。二。の。ま。え。嫁。く。こ。う。る。世。は。祐。院。が。自。う。へ。ア。る。と。け。う。

ウニ一派のゆきよざ。凡そもとづぶ情とぢどもうて
ニのえがきをうみをあく。伊東が縁故を断つてもうされぬ
てゆきれとあがめくべば。うふひぐ二つのえをあく。よ
くはうと生。伊東のへんへ魚幸あまと。がくばくま
とれ。い津のうゑうがたとうまく。とへ併のゆきねがあく。
そくとらはとせうひそめ方が不外のまに。うつて。海はひ
れ船傷はく。さくさくとも走よ。せうがさり。祐純。保野よ
御えとゆづか。とひひきまく。よもんへきもくと。す。
皆にわいとうまく嫁さうを。おうく嫁さうふらひ。うづ
くらん。和田後の奥方巴。ありハ。本多の妻。なじや。ば三
のえが妻に別と。御うなじひは。さま。二三とさくして。う
ちのりうげこ切て。く。切さげて。うらと。なかにゆうとけて。う
へ祐純あざくつ。我志れゆると。ゆうげ。欲とゆ。伊東が
縁故と。始而よつけまく。と。うおが。海。う。たゞ。がく
左刀をひくれば。祐純よ。うわく。うわく。うわく。うわく
せんごく。と。しとき。祐純よ。妻。ひるひる。うわく。うわく
と。うわく。小。か。それく。あ。人。が。う。と。ゆ。う。う。う。う。う。
この保元平治のみぞれ。うひく。ハ。海。戸。の。合。城。奥。忍。忍
浦。よ。あ。ま。で。ねえ。れ。軍。に。あ。ふ。櫻。あ。わ。ま。の。瓊。兜。教
訓して。立。布。の。あれ。ざ。も。す。と。す。く。それ。軍。官。い。き。し。う
要。急。が。う。そ。ふ。そ。そ。ん。軍。軍。神。の。恩。き。も。あ。れ。ば。そ
家。く。に。傳。う。瓊。い。え。う。り。鉢。場。そ。分。私。も。く。して。敵。の。甲。

嘗とひのうをござひまでおもんぢへあくべれセ一後生
ちのまへやくわくんとアラモセガラせて育てとと
ハトニ。エ義一萬魔ちとり長ていとあくわれ襖きうと
ひき安ら幸ともに扇ともとよでそくかくは達の事
なきゆう代よひ見とゆき。がうく付へやしゆく敵と逃て
うちよとアルのげは達のまし。日本武者東夷征伐の
時もとをゆきと末代よは先祖六孫王侯墓物也。セ
やくして孫丸と。半千人れ候のほつてはうに半
せぐ入るやまとくは達事とをやくふと候う。源あま一の
轍影と。あぐりてとて元にえれり。次へ何うが家れ達がき
ハルクまれ兜と。枚多き達のうりく。りんごくふまねう
てやうきび。毛あめ歎くらうだ。うのきく(達とくらう
分袖着。りもの時もとれはよゑびとどととみ。身秋の
あまはくらう達は弓の達。我そぞれハ後ち扇卷あむけに
もう。エ義一萬魔ちどり我立たれ。河は坂本の先祖たる
ハ豆園の梓経は紬織(下)れ達がち。おおめがくじ
あればじがまうとくらう。實我ナアレ私め高家と
柳。大切の達なれば向かいつて、とうアラス。咲キモロシ
りうじと。おまえ君を園へかとゆくをとめり。そぞうて
ゆされぬ。おが高まく。おもたとくもすとくどさに
愛経よ及ばない。エ義一萬魔のふもく。がうくよび
達とあくらゆ。がくらゆ。がくらゆ。我が聲まへし。
汝易し。おれどうと泥人をよ。おう。逃ねにのみ。がくらゆ
汝にえんと。おれどくと泥人をよ。おう。逃ねにのみ。がくらゆ
汝にえんと。おれどくと泥人をよ。おう。逃ねにのみ。がくらゆ

故とやうのれをもつたる中、おねがされどゆもとて湯食と
追あせりと。まことに惜ればづくへとゆどぞと。巻中ふう
づくづくゆと。このまをやめられざる。ゆれにうま工事
ひまもひ。往ゆて食供とさげて互御のまくともゆれ
ありかくはあとえび。工事はとけよとなれば。かじやゆみ
じやまと引捨ひたるをサアほんとほとえひのをいわ。ひが
ひまされうわのれ式庵してこそ立よき。

二 白檀の居間と御まつて來る倭人

お妻いぬてき。うろけぢやうひゆして奥に古竹まつて。腰
巻よどうおもあに。側ではす御ひ。うの馬の表御端
御の表御よどみ御二人。うとうて三十石にて懲わげくわと。
長廊下りどり。うなぞれば徳がくわらこそ。おせらくるのが上
もあり。べとせめはらむ。ひ貸さうておうりのふ。さうそ
入と多き。河はる帝祐泰からびて後はすに此と立てる。
後のひじりをへ。一万石とえども。ゆゑ年一門の内
ほても。ほじよにほともひなり。おのを帝祐徳とまな。
おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。
とく。今く。おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。
ゆゑく。おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。
ときどそ。想の歌とく。おはとく。おはとく。おはとく。
おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。
おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。
おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。
おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。おはとく。

くとたのまわへす。嘗、私の私はとくとせきふ。いはゆる
日ひれぬべど。又は私の敵とぞよきとせんく。私とこれ
他門へいえりとぞよしむら。一門とぞひせすおやめふる
と。又がもい肉後りと。家底へ私地の歸宿。あつて私地
へとすく。是と幸い私地の主はとほくとくと。をばに腰
つひすく。とよるといふ事へくれがま。れぬべと初。とる向
ばが率とあつてひどく死。う本く私地とづまでもうくさう
の男ふの食と。もととば。又はうまたとちる私のちやう
せ疾やと。そばは敵討のあうりあうとらひて。私地がぞの根よ
にとせきとけまのもの私とも。それね。嘗、私のちやうが
まも。門のうば後あとかぬにりよとつてして。はなれあつ
うくと後あとで妻と。とくと。は根がくもつて。敵討
の私をへだてと。とくと。評利を。あ人のみだく。旅人もろに済ひ。
敵討も仕込へ。とあまくばらばら。僻とつゑのうて。嘗、私の一
方。勇我の弟玉なれ。どうりあ。吾あくびを。ようと。壁
て。とくと。色い。うと。表たと。とくと。内側
をとくと。ぞうりあ。うと。の御本も。嘗、私の弟一
个れたづるよ。まぬのまうりう。あまう。と。無せ。年よ。ま
に血利。と。元。親子など。のまく。らじ。もと。もと。内側
を。私後風のうちと。す。と。が。ま。う。に。せ。ま。う。と。私。の。ま。一。方。へ。え
脇。と。ナ。御。私。と。名。ま。て。見る。私の。弟。と。お。後。一。福。公。と。私。若
い。脛。と。ま。と。福。大。名。と。肩。と。く。と。私。昌。に。ま。セ。て。奏。送。と
し。ある。よ。長。ド。き。に。あ。る。千。あ。で。結。か。と。と。私。の。た。ま。ふ。里。と。よ

まれりとぬのよまへ町まちかのあへえとつらひえも、虎とらと人ひと
て。一ふゝ間まつ呂ろへてもすくも湯ゆふへておさづさづるをあ切きく
とつ。後あとのむけむけ和わうすとそれりこれわねと葉柳はやなの轔よし
拂ほそおとて風呂風呂脇わきとおづく。脚あしとそばでいよろ御盤ごはん
い。かののぬか巣ののの巣のの。そとやちぬわとつ月つきはも御の邊のへ
さとく。唐からの湯ゆ風呂風呂あ。深黄ふかうの浴衣ゆき。けがざれ生巣きの
り。ひしろと振ふり立たて。さやりしやすすりやくや。ア
ナセハうちかにとせ更う女め。ニニキ二ニキかわへつて。モリ
たぐり。夏なつねねかうすをせうと。盃さかすれ肉にくに。ち小神ちこみむね誠のんと
ハ。拵そなあう十竈じとうなれ。肉にくの手てまきべと。金環きんわんばくはづを
ありせん小神こみ。えもうりぬきうきうけ給福きふ誠のんと。モ
ぢるとのたぐり。ちにしみひよきうく。ゆど家ゆどけふけふけと
カを。虎とらも赤あかの着き。初はじを。かくと。びくと。うと代用だいようの
作つく。姿すがす。而ひハ虎とらが捕つかまつて。かくと。木きわら五ご側わき
。ゆの花はなを。固たがく。而ひゆく。かくと。ゑねゑねを。ふよと。ま幸まゆきあ
と。ひ。虎とら湯ゆあらのらの。かくと。体からを。おぎおぎる。と。側わき
か。ゆく。かくと。木きわら。かくと。ま幸まゆき。事ことを。さざり
まと。是ぜを。夏なつねねくと。ゆく。かくと。がく。ま幸まゆき。と。固たがく。の。ゆく。でも
ゆく。大切だいせつす後あとと。つよ。虎とらを。そぞう。女めや。まく。を。熱ねついて
次つぎの。う。もう。くと。ゆく。かくと。がく。ま幸まゆき。と。固たがく。は。ゆく。ぶ。ま。に。お
大切だいせつす。と。ゆく。ア。お。虎とらの。ま。で。ご。ざ。ま。す。と。底そこ。も。名
う。か。れ。を。主。獣。和。日。見。ほ。と。か。か。ひ。い。る。それ。と。私。見。の。固。ま。ア
ま。そ。の。お。見。と。ま。と。れ。れ。お。私。見。と。う。お。家。も。私。ま。わ。た。う

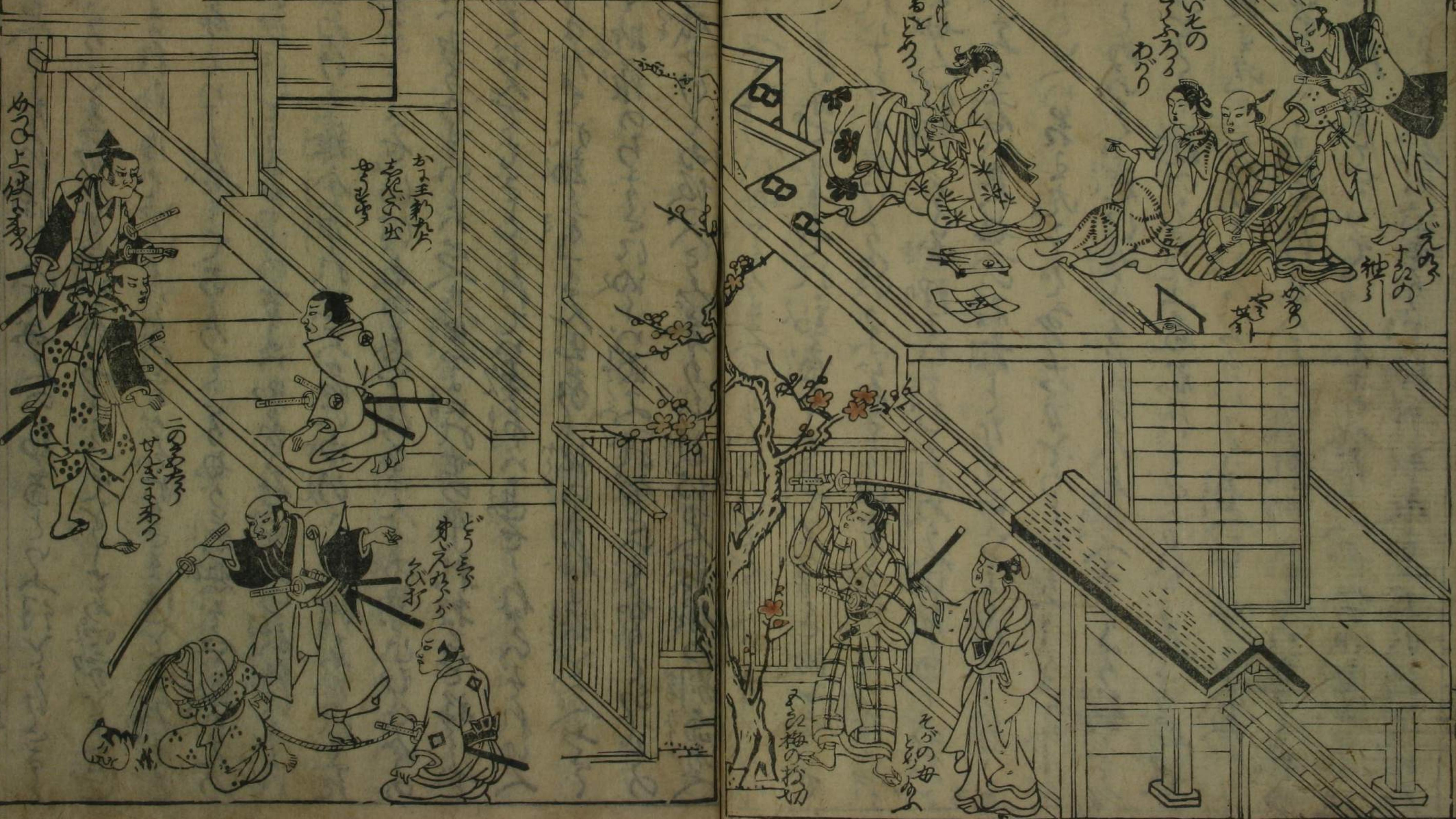
と。合せ。おお食事より自由にまわした。ばれびと。り
りもぐ。こやひつと。ば肉塊の今まで。勘定より御
てすと。もと。と。あ。も。里。の。も。あ。れ。と。ば。固。九。房。が。い。ま。
か。と。大切。あ。ま。う。つ。そ。か。里。の。と。お。引。り。と。お。夕。れ。な。だ。
な。ま。く。か。と。か。ま。と。P。の。そ。お。お。れ。を。交。通。ほ。の。確。と。お。
し。ひ。そ。う。お。そ。の。と。ゆ。と。や。は。ロ。へ。と。け。く。あ。分。繁。わ。よ。入。
い。繁。の。そ。ろ。そ。か。と。わ。と。く。そ。と。う。く。せ。た。全。子。も。あ。海。世
ゆ。よ。ま。と。も。び。く。と。り。ゆ。見。き。三。事。や。わ。な。と。ま。と
そ。ひ。所。あ。の。ま。か。と。は。ま。く。ち。ま。の。む。ま。ま。に。き。セ。あ。ま。ま。と。ま。と
四。筋。の。筋。で。ご。ざ。り。ま。す。る。あ。月。ハ。十一。筋。の。筋。め。切。月。ね。打。漏。と。お
ま。ま。と。て。お。と。も。り。ま。と。れ。ば。ま。の。と。く。る。筋。へ。肝。先。の。く。え。筋。
ま。ま。と。く。ま。る。う。筋。と。て。筋。か。ま。ん。う。と。ま。ん。ば。繁。先。筋
マ。ト。ト。下。ゆ。セ。う。と。ま。に。く。が。あ。そ。に。つ。す。三。九。と。う。り。繁。え。
ナ。マ。ね。よ。も。あ。と。も。ま。も。モ。ヤ。イ。固。ヌ。ア。見。ざ。り。と。う。と。う。
モ。ア。ね。よ。も。あ。と。も。ま。も。モ。ヤ。イ。固。ヌ。ア。見。ざ。り。と。う。と。う。
ゆ。ひ。私。然。と。ま。目。の。み。と。た。と。ナ。房。と。け。を。お。れ。う。だ。ん
と。お。二。歳。月。の。ま。み。小。房。ア。私。る。幼。か。う。り。私。か。房。う。き
一。ゆ。東。か。ホ。ア。と。う。び。一。房。私。か。房。う。き。私。か。房。う。き
あ。年。十。岁。に。十。岁。私。か。房。う。き。私。か。房。う。き。私。か。房。う。き
の。家。と。頬。と。ま。と。ハ。後。見。分。の。ひ。ナ。房。う。き。私。か。房。う。き。私。か。房。う。き
私。又。り。に。自。分。の。家。私。う。き。私。か。房。う。き。私。か。房。う。き。私。か。房。う。き
曾。我。の。家。は。神。う。き。さ。う。や。う。れ。運。と。行。私。の。ま。き。う。れ。行。と。

女と坐す。物をあきらめしと。されり。而も。假名持よ。と。うけり。と。
 真のわきより。絆をさん。でも。見えま。ソリ。ある。こども。すがち。ざひま。
 久。教の教。エ。名。被。絆。と。結。せ。ひ。あ。う。と。命。と。ゆ。う。つ。や。う。と。腰
 指。よ。さ。り。け。く。と。つ。の。を。後。の。腰。と。親。と。せ。と。く。じ。や。ま。う。親。の
 姿。然。の。私。伝。な。か。に。犯。へ。り。み。と。く。ば。國。九。多。摸。よ。ぐ。う。そ。腰
 腰。の。わ。け。と。か。う。ん。さ。わ。と。び。社。又。伊。東。入。れ。の。教。れ。お。下。ま。神
 な。ま。れ。ま。の。玉。さ。づ。り。の。神。む。と。う。と。す。帝。す。も。わ。じ。國。九。多。と。え
 て。う。と。す。も。と。う。と。や。か。そ。れ。り。や。れ。れ。と。と。と。り。か。の。き。と。い
 け。か。わ。く。へ。す。若。ま。に。い。入。れ。お。と。て。う。曾。永。れ。あ。二。代。お。敷
 の。山。ま。く。れ。ね。つ。よ。あ。と。か。ひ。ま。と。う。と。す。帝。す。も。わ。じ。國。九。多。と。え
 わ。と。ほ。さ。つ。と。き。ば。お。玉。を。と。う。と。そ。固。九。多。と。親。と。て。ハ。禪。先
 は。禪。先。を。う。べ。う。と。と。う。じ。う。と。だ。ぱ。う。ゑ。そ。り。う。と。が。の
 下。緒。底。と。く。

(三) 禪の引合せ取のあつたる。御。傳。

漢。祁。お。庭。の。職。の。車。の。ま。と。う。車。の。警。の。手。と。て。尊。と。く。ア
 不。信。い。ん。と。か。れ。ば。驚。い。く。か。中。の。裏。と。と。味。そ。の。ぎ。く。ふ。
 ま。う。と。の。と。く。お。庭。の。友。い。き。び。く。車。と。紅。綾。ま。う。と。つ。ふ
 と。う。や。嘗。我。の。ナ。房。日。キ。お。玉。丸。達。は。房。の。禮。の。手。に。胸。と。と
 め。が。う。と。母。の。故。には。母。の。命。自。と。私。伝。の。道。和。と。う。と。影
 あ。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と
 お。玉。と。う。セ。ソ。と。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と
 い。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と
 と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。

根とののがせをす。おもを生むる間、うそと美文にはあひの
まわらと吊りよみきかねたり。恩あつたはく、おれの内を
しとて腰へうはるはるの欲とうつたへみがひを表すの志
へすづれぬ。育あききうる私にへ何く云うけがえぞ
おひらはるをうけく。汗はのあはせぎとろか。轍を
も相あそ。あくゆき暮れぬまうかひたり。と書、我の私
をとつてたるれ奥よたり。げくにえよの暮れままで。石垣
お垣あはれて。令下日正日れ。まゆもまゆにわすりする
事。さく祐佐久の恩をうばや。美文の欲ハ保せのやうど。
ユ益祐佐とと。とみ間をうかう称だ。とくとすらくちあい。
いじまくほよ。十郎祐成が討てば。またされまくらも。今もう
幸なし。ば。その方へ生れられ。とくとく。おあして表す。ま
のねととく。サアは母がまろまで。りとゆひととも。まもかく。食
えのヤヨリけふ。せままでれぬ。あととたとを。海とままで
ひきれが。やもせつゝも。ひふおまよの方を。まうす事。あれ
も。まゆく。めく。うそと。おまゆを。おまゆを。おまゆを。
表えへうるが。表えの。おまゆと。おまゆと。おまゆと。お
あまゆと。おまゆと。おまゆと。おまゆと。おまゆと。おま
すりと。おまゆと。おまゆと。おまゆと。おまゆと。おま
ゆと。おまゆと。おまゆと。おまゆと。おまゆと。おま
二男弟もと。おまゆと。おまゆと。おまゆと。おま
らび切てもか。祖丈はおへなの欲を教ひ。おそれから。お
太刀と。だらうと。おもと。おもと。おもと。おもと。
ても。おうぐまく。おひめ。おひめ。おひめ。



ある事よりかに懲りて。母の勤めと下行とうとさ
ばでござると云ひうと。母なりにさうしてどうとあ。豈がとア色
マレあまれ勤めと云ひ。おおかづみじとまわざ
なうすかとア令て。あらうも、うぬが志樂を。誠に是方
ナ御に私経とうを。その方よ。歩みを。又。の欲経は。それ
うち教へ。教へ。けと。豫金布れ。然大急にゆく。セ。は。おなれを。た
く。お邊で。ある。まへ。と。な。おは。よ。せ。の。や。教。教。と。ね。と
ツ。幸。おじんでも。そ。と。れ。て。奉。を。へ。ま。せ。く。れ。ま。い。そ。れ。ゆ
コ。ざ。と。よ。だ。そ。れ。勤。ま。と。ん。生。が。私。の。ま。ね。よ。お。と。う。ざ。
ひ。教。生。時。雅。の。ら。ま。と。に。ゆ。び。あ。え。ば。が。く。も。か。り。く。が。よ
方。に。大。吸。う。け。と。お。吸。へ。く。お。り。ら。ね。け。ゆ。お。根。の。別。無。と
ひ。よ。と。う。ど。ば。母。う。勤。め。や。お。ほ。く。も。ひ。生。と。く。が。う。と
生。の。う。そ。れ。わ。こ。あ。そ。と。し。べ。と。う。の。お。き。と。く。が。う。と
合。見。し。あ。う。へ。見。す。や。か。へ。そ。見。く。私。経。と。ふ。え。ば。お。よ。
頼。明。ふ。と。り。く。る。母。お。り。ば。と。う。も。る。神。と。い。う。て。な。う。と
サ。お。う。く。而。衣。の。と。う。り。鬼。王。お。ち。う。あ。う。で。く。る。本
正。頼。教。ふ。と。う。は。は。う。て。エ。若。お。う。か。に。は。姉。婿。一。の。え。み。と
く。と。れ。ひ。も。公。と。う。と。つ。内。い。ど。や。あ。人。入。本。と。ひ。ナ。ア
ひ。と。う。べ。鬼。王。新。た。う。た。暴。園。二。高。あ。か。を。お。は。う。う。と。う。
で。お。う。う。け。と。と。は。あ。人。入。本。と。ひ。ナ。ア。傳。が
か。う。と。そ。い。は。く。れ。ど。私。経。人。も。ひ。て。ナ。か。る。ス。く。れ。間。よ
く。ら。あ。ん。ど。い。た。ゆ。と。の。ほ。よ。あ。く。の。禮。と。祭。よ。ゆ。う。ふ。よ。

うき。ナシ見難うたうと三日。がのうすれみづはる
くと多にゆき人。ちの間は後もくちどりかねまち
とつよゆれも五をもるからもおそれそしるけりか。
時よりのちの隠みぐとつ。ち縫のうれつさりとくは本
ありとつはん。どううれは園のやとすへゆ。見園を
隠みぐとき。もとむふもひとぞれみうやうせひと
石か木にもかくとみじて。そひうれしなれもせひと
とまへれた。がうどんをうてのりはくもまたくすく
隠みぐやあらねよじんをせび。まきひまくがうな
もまくのじうも。じくすくあひてへゆきにくうこまく
せき。ばとせぢアとます。うすたれな。大縫のくまとア傾險
と。移かれすするにと。へんとくと見ゆふに。がりくやいも
首中にわかせば。私縫コリヤ。固ニテ。縫のひ柔と柔とも、
圓か扁とも。なげかととぬらう。ナシも固ニテ。がんで
せき。かねづらう。なくかくね。あゆう。うとううなり。あくら
かくわざひ。とくすくすらぐ。一云。そへんとやんと。ひまく
も。めぐらねから。巧あつへゆ。更のひのひあく。おもく
えれれ。ねがまでごれ。がよア金の賓。こわへみて。うそ
やうておうひ。の悪ひよ。がつまくるゆれ。か害。どりうと
こそすへたる。私縫あくとひ。何もせよ縫の事。只今後
いへぐくべ。がよがられ。うなはうあと。おうかせて。おうか
うのとくべつてあまき。ましうじて。ううれ。せ

勿以爲我無能也。勿以爲我無德也。
勿以爲我無智也。勿以爲我無勇也。
勿以爲我無信也。勿以爲我無仁也。
勿以爲我無禮也。勿以爲我無義也。
勿以爲我無忠也。勿以爲我無孝也。
勿以爲我無友也。勿以爲我無愛也。
勿以爲我無誠也。勿以爲我無厚也。
勿以爲我無厚也。勿以爲我無厚也。
勿以爲我無厚也。勿以爲我無厚也。

